

平成19年度岩手県立総合教育センター

命を大切にする心を育む中学校道徳教育に関する研究 - 道徳的実践プログラムの作成をとおして -

(第1報)

研究協力校

花巻市立南城中学校

岩手県立総合教育センター
教科領域教育室
小石孝紀

目 次

研究目的	1
研究の方向性	1
研究の年次計画	1
本年度の研究内容与方法	1
1 目標	1
2 内容与方法	2
3 研究協力校	2
研究結果の分析と考察	2
1 命を大切にすることを育む中学校道徳教育に関する基本構想	2
(1) 命を大切にすることを育むことの現状	2
(2) 命を大切にすることを育む中学校道徳教育の基本的な考え方	2
(3) 命を大切にすることを育む道徳的実践プログラムを作成することの意義	7
(4) 命を大切にすることを育む道徳的実践プログラムにおける道徳の時間と 他領域等との関連	7
(5) 命を大切にすることを育む道徳的実践プログラムにおける道徳的実践活動の ねらいと活動場面	9
(6) 命を大切にすることを育む道徳的実践プログラムにおける道徳的実践活動の進め方	10
(7) 命を大切にすることを育む道徳的実践プログラムにおける道徳の時間の指導構想	11
(8) 命を大切にすることを育む中学校道徳教育に関する基本構想図	13
2 命を大切にすることを育む道徳的実践プログラムの構想について	14
(1) 命を大切にすることを育む道徳的実践プログラムの概要	14
(2) 命を大切にすることを育む道徳的実践プログラムの各学校における作成手順	14
研究のまとめ	16
1 研究の成果	16
2 今後の課題	16

〔おわりに〕

【引用文献】

【参考文献】

研究目的

道徳教育の目標では「人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培う」ことが筆頭に挙げられており、命を大切にすることを育むことは、豊かな人間性を形成する上での源となるものである。特に心身の成長が著しくみられるようになる中学生の時期に、人間として自他の生命をかけたがないものとして大切にすることを育んでいくことはとても重要なことであり、道徳教育の果たす役割は非常に大きい。

しかし、平成18年度中央教育審議会の「道徳教育の現状と課題」の報告においては、学年の段階等を踏まえた道徳教育の重点がみえにくいことや道徳の指導計画や道徳の時間の指導が形式化して命を大切にすることが十分に育っていないことが課題として挙げられている。これらのことは、教育活動全体をとおして行われる道徳教育の指導計画と道徳の時間との相互関連が、命を大切にすることを育む視点から効果的に機能しておらず、系統的かつ継続的な見通しが不足していることが要因であると考えられる。さらに、道徳の時間の指導において、生徒の心の内面に迫る効果的な指導方法になっていないことも要因の一つとして考えられる。

このような状況を改善するためには、道徳の時間を中心に、教科、他領域、生徒の日常生活全般の指導と関連させた道徳的実践プログラムを作成し、道徳的実践活動を推進していくことが必要である。その際、中心となる道徳の時間においては、生徒の発達段階や実態に応じ、日常生活や他の教育活動と関連させた効果的な教材・資料選定や指導方法の改善・充実を図ることが重要である。

そこで、本研究は、道徳的実践プログラムの作成をとおして、命を大切にすることを育むための指導の在り方について明らかにし、中学校道徳教育の充実に役立てようとするものである。

研究の方向性

中学校において、命を大切にすることを育むために効果的な道徳の時間の指導方法や道徳的実践活動の計画の在り方を示した道徳的実践プログラムを作成し、命を大切にすることを育む中学校道徳教育の推進に資する。

研究の年次計画

本研究は、平成19年度から平成20年度にわたる2年次研究である。

第1年次（平成19年度）

命を大切にすることを育む道徳教育についての基本的な考え方の検討及び基本構想を立案し、命を大切にすることを育む効果的な道徳の時間の指導方法や道徳的実践活動の在り方を示した道徳的実践プログラムの概要を提示する。

第2年次（平成20年度）

第1年次に作成した道徳的実践プログラムに沿って、道徳の時間の指導や道徳的実践活動を行い、その改善点を明らかにし、命を大切にすることを育むための道徳的実践プログラムを完成する。

本年度の研究内容と方法

1 目標

命を大切にすることを育む中学校道徳教育についての基本的な考え方の検討をし、その基本構想を立案する。それに基づいて中学校道徳教育における命を大切にすることを育む道徳的価値を高める道徳的実践プログラムの概要を作成する。

2 内容与方法

(1) 命を大切にすることを育む中学校道徳教育に関する基本構想の立案（文献法）

主題にかかわる先行研究や文献により，中学校道徳教育における命を大切にすることを育む道徳的実践プログラムを作成する意義や視点を明らかにし，命を大切にすることを育む中学校道徳教育に関する基本構想を立案する。

(2) 命を大切にすることを育む中学校道徳教育における道徳的実践プログラムの作成（文献法）

命を大切にすることを育む中学校道徳教育に関する基本構想に基づき，中学校道徳教育における命を大切にすることを育む道徳的実践プログラムの概要を作成する。

3 研究協力校

花巻市立南城中学校

研究結果の分析と考察

1 命を大切にすることを育む中学校道徳教育に関する基本構想

(1) 命を大切にすることを育むことの現状

2004年に文部科学省の「児童生徒の問題行動対策重点プログラム」が出され，「命を大切にすることを教育」をさらに充実させ，実効あるものとして進めていくために具体的に次の三つの提言が示された。「命を大切にすることを育む教育の充実」「伝え合う力と望ましい人間関係の指導の推進」「社会性を育む体験活動の充実」である。そして，学校においては，道徳の時間をはじめ教育課程全体を通じて，生命尊重の教育を積極的に取り上げる場や機会を増やしていくことの重要性も示された。

しかし，「中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会豊かな心をはぐくむ教育の在り方に関する専門部会（第7回）」（2006）の「道徳教育の現状と課題」では，生徒を取り巻く環境の変化，家庭や地域社会の教育力の低下，生活体験の減少によって生命尊重の心が十分育っていないことが報告され，その後も依然として児童生徒による命を大切にしない痛ましい事件が続いている。

そのような中，2006年12月には改正教育基本法が成立し，その第二条「教育の目標」の四には，「生命を尊び，自然を大切にし，環境の保全に寄与する態度を養うこと」が明示された。教育の根幹を示す改正教育基本法に「生命を尊ぶ態度を養う」との趣旨が明示されたことは，大変重要なことである。このことを受けて，各学校はもちろん社会全体において，より一層命を大切にすることを育む教育の充実が求められている。

(2) 命を大切にすることを育む中学校道徳教育の基本的な考え方

命を大切にすることを育む中学校道徳教育について，「児童生徒の問題行動対策重点プログラム」で示された三つの具体的な提言を中学校道徳教育の効果的な推進を図ることによって具現化していくことが本研究の基本的な考え方である。本研究においては，命を大切にすることを育むための三つの提言で求められている心や力を「健全な自尊感情¹を育むこと」，「規範意識を育むこと」，「人間関係を築く力を育むこと」の三つの視点からとらえる。

三つの提言の中の「命を大切にすることを育む教育の充実」は，「健全な自尊感情を育むこと」，「規範意識を育むこと」の視点が深くかかわっていると考える。そして，「伝え合う力と望ましい人間関係の指導の推進」，「社会性を育む体験活動の充実」の提言は，「人間関係を築く力を育むこと」の視点が深くかかわっていると考える。これら三つの視点に内在する道徳性を学

習指導要領道徳編の内容項目と結び付けて、学校教育活動全体をとおして意図的、効果的に高めていくことで命を大切にすることを育んでいきたいと考える。

ア 「健全な自尊感情を育む」ことについて

「児童生徒の問題行動対策重点プログラム」の一つ目の提言の中で「道徳の時間をはじめ教育課程全体を通じて、自他のかけがえのなさ、誕生の喜び、死の重さ、生きることの尊さ、自信や夢をもって生きることの大切さなどを積極的に取り上げる場や機会を増やすこと」の重要性が述べられている。「自他のかけがえのなさ」を感じることで「自尊感情²（自己肯定感）」に大きくかわることから、「自尊感情（自己肯定感）を育む」ことは命を大切にすることを育むことにつながる。と考える。

また、「中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会豊かな心をはぐくむ教育の在り方に関する専門部会（第7回）」（2006）では、「人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培い、自立し、健全な自尊感情をもち主体的、自律的に生きる（中略）力を育成するために、基本的な倫理観などその基盤となる道徳性を養う（後略）」ことが示され、「健全な自尊感情を育むこと」の重要性が述べられている。

「健全な自尊感情を育む」ためには、命のもつ偶然性、有限性、連続性などの側面に対するイメージを効果的に膨らませ、かけがえのない自分の存在を自覚することが大切である。と考える。また、自己実現のための向上心、集団とのかかわりの中での自己責任感や自己有用感をもつことも重要である。さらに、自分と同じようにかけがえのない他者の存在に気づき、互いを認め合うことも大切である。と考える。

「健全な自尊感情を育む」ことによって、かけがえのない自分や他を大事にしようとする気持ちが生まれ、自他の命を大切にすることを育むことにつながる。と考える。

イ 「規範意識を育む」ことについて

「児童生徒の問題行動対策重点プログラム」の一つ目の提言の中では、「他人を傷つけない、自分を傷つけないといった基本的な倫理観を踏まえて生命を尊重した行動がとれるように」という行動規範をもつことの大切さも述べられている。

また、2006年12月に成立した改正教育基本法を受けて、「中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会第3期教育課程部会の審議の状況について」（2007年1月）の今後検討されるべき事項として、「生命を尊ぶとともに、いじめを許さないといった規範意識の確立の根底となる道徳教育の内容・形式両面にわたる見直し」の必要性を示している。

「規範意識を育む」ためには、集団や社会と個人とのかかわりを十分理解させた上で、行動する際の善悪の判断力を身に付けていくことが必要になる。そこから、不正を憎む正義感が生まれ、きまりや法を遵守することの主体的な自覚へとつながっていくもの。と考える。

「規範意識を育む」ことによって、自分の命はもとより、他の命を傷ついたり、奪ったりすることがどれだけ罪深いことなのかという内省する心が生まれ、かけがえのない命を大切にしようとする心の育成につながる。と考える。

*1 永田(2007)は、『学習指導要領改訂への動きとこれからの道徳教育』（講話用資料）で「健全な自尊感情」について、「自尊と他者尊重とのバランスがとれたしなやかな自尊心であり自律心」というとらえをしている。

*2 近藤卓(2007)は、『いのちの教育の理論と実践』（金子書房、p4～13）で「自尊感情」について、「いのちの教育が目指すものは、いうまでもなく基本的自尊感情の確立であり補償である。基本的自尊感情と社会的自尊感情とのバランスのとれた自尊感情が、子どもたちのいのちを支えることになる。」と定義している。

ウ 「人間関係を築く力を育む」ことについて

「児童生徒の問題行動対策重点プログラム」の二つ目、三つ目の提言はもちろん、現行中学校学習指導要領の第1章「総則」に、「家庭や地域社会との連携を図りながら、ボランティア活動や自然体験活動などの豊かな体験を通して生徒の内面に根ざした道徳性の育成が図られるように」と示されている。

「望ましい人間関係をつくる力を身につける」ことも「生きる素晴らしさを体験活動を通じて実感できるようにする」ことも、他者とのかかわり合いの中で、自己を見つめることの大切さが基盤であると考え。そして、他者によって自己が活かされていることに気付くことで、他者への思いやりや尊重の心を育むことにつながると考える。

「人間関係を築く力を育む」ことによって、他者への思いやりや尊重の心が生まれ、他者の存在が自分にとって大切なことを自覚することになり、他者の命を大切にすることを育むことにつながると考える。

エ 命を大切にすることを育む中学校道徳教育における三つの視点全体にかかわる重視する内容項目の とらえについて

中学生の時期は、心身両面にわたる発達著しく、主体的な自我の確立を求める時期である。この特性をふまえ、命を大切にすることを育むための「健全な自尊感情」、「規範意識」、「人間関係を築く力」という三つの視点全てにかかわる重視したい学習指導要領道徳編の内容項目を次の四つとしてとらえる。

内容項目 1 - (3) 「自主・自律，誠実，責任」

自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任を持つ。

2 - (3) 「信頼・友情」

友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。

3 - (2) 「生命の尊重」

生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。

4 - (3) 「公德心，社会連帯，よりよい社会の実現」

公德心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。

内容項目の表題は、副読本から引用したものである。本ページ以降も同じである。

1 - (3) 「自主・自律，誠実，責任」については、中学生の時期に主体的な自我を確立するための基盤となる価値であり、「健全な自尊感情」や「規範意識」の根幹を成す価値であると考え。さらに「人間関係を築く力」の視点では、自分自身が内面に有することによって、はじめて他者とのかかわりが可能になってくる価値であることから重視したい内容項目である。

2 - (3) 「信頼・友情」については、中学生の時期の自己の生き方に大きな影響を与える大切な存在である友人との関係づくりが中学生自身の関心の大きな割合を占める実態から重要な内容項目であると考え。「人間関係を築く力」の視点で基盤となり、「健全な自尊感情」の視点では、「自分自身を認めてくれる他者の存在を大切にすること」、「規範意識」の視点では、「信頼関係」を築くために必要となってくる価値であることから関連する内容項目である。

3 - (2) 「生命の尊重」は、本研究の主題そのものに相当する価値である。

そして、4 - (3) 「公德心，社会連帯，よりよい社会の実現」については、中学生という自己の将来の生き方や進路選択・決定をする時期に重要な内容項目であると考ええる。「健全な自尊感情」の視点からは、「社会連帯」や「よりよい社会の実現」などの価値を図るための体験的活動をとおして、自分自身を見つめることで「自己有用感」が育まれてくると考える。「規範意識」の視点では、「公德心」という価値が大きくかかわっていると考える。そして、「人間関係を築く力」の視点では、「社会連帯」や「よりよい社会の実現」の価値に関わる体験的活動が異年代交流になっていることからかわりがある内容項目であると考えらる。

これら四つの内容項目が、「健全な自尊感情」、「規範意識」、「人間関係を築く」の三つの視点にどのようにかかわるのか【表1】に示すこととする。

【表1】命を大切にすることを育む上での四つの内容項目と三つの視点とのかかわり

	健全な自尊感情を育む	規範意識を育む	人間関係を築く力を育む
1 - (3) 自主・自律 誠実，責任	・自律性に裏打ちされた自己肯定感が，健全な自尊感情を育む上で必要になること	・自主・自律，誠実，責任そのものの価値を高めることが，規範意識の確立につながる	・自主・自律や誠実，責任の価値が身に付いていないと他者とのかかわりがうまくいかないことから自分自身が内面に有することではじめてよりよい人間関係を築くことができる
2 - (3) 友情・信頼	・仲間どうしが互いを認め合うことで，自分とは異なった立場や感じ方，考え方をする相手を受け入れていくこと	・友人との間に信頼関係を築くために最低限の規範意識を有していることが必要になってくる	・友人との関係づくりが中学生にとって，自分の生き方に大きな影響を与え人間関係の核になる
3 - (2) 生命の尊重	・かけがえのない自己の存在に気付くことで，同じようかけがえのない他の存在も認めていくこと	・かけがえのない自分の命の大切さに気付くことで他の命を無用に傷つけたり，奪うことがあつたりしてはならないという気持ちにつながる	・人間の持つ愛情の中で大切な命が育まれていることを認識することで，その基盤になっているのが人間関係力であるということに気付く
4 - (3) 公德心，社会連帯，よりよい社会の実現	・相手の立場や公共での行動の在り方を考えた公德心，自尊と他者尊重とのバランスのとれた健全な自尊感情が基盤となって作用すること	・公德心は，マナーを大切にすること，公共の中で規範を守ることが大切である。話し合いをとおして問題を解決したり，折り合いながら協力し合つてよりよい社会を実現しようとする心につながる	・人間は一人だけでは生きていけないこと，社会の中で生かされていることを自覚することで，人とのかかわり合いの大切さを感じ，よりよい社会の実現の価値を高めることが人間関係力の育成につながる

これまで述べてきた「命を大切にすることを育む」ための三つの視点どうし及び三つの視点と内在する道徳内容項目とのかかわりを次頁【図1】のようにとらえる。

児童生徒の問題行動対策重点プログラムの具体的な提言

提言 1

命を大切にする心を育む教育の充実

子どもが自他の生命の大切さを実感し、「他人を傷つけない」、「自分を傷つけない」といった基本的な倫理観を踏まえて生命を尊重した行動がとれるよう、命を大切にする心を育むことの重要性

提言 2

伝え合う力と望ましい人間関係を築くための指導の推進

提言 3

社会性を育む体験活動の充実

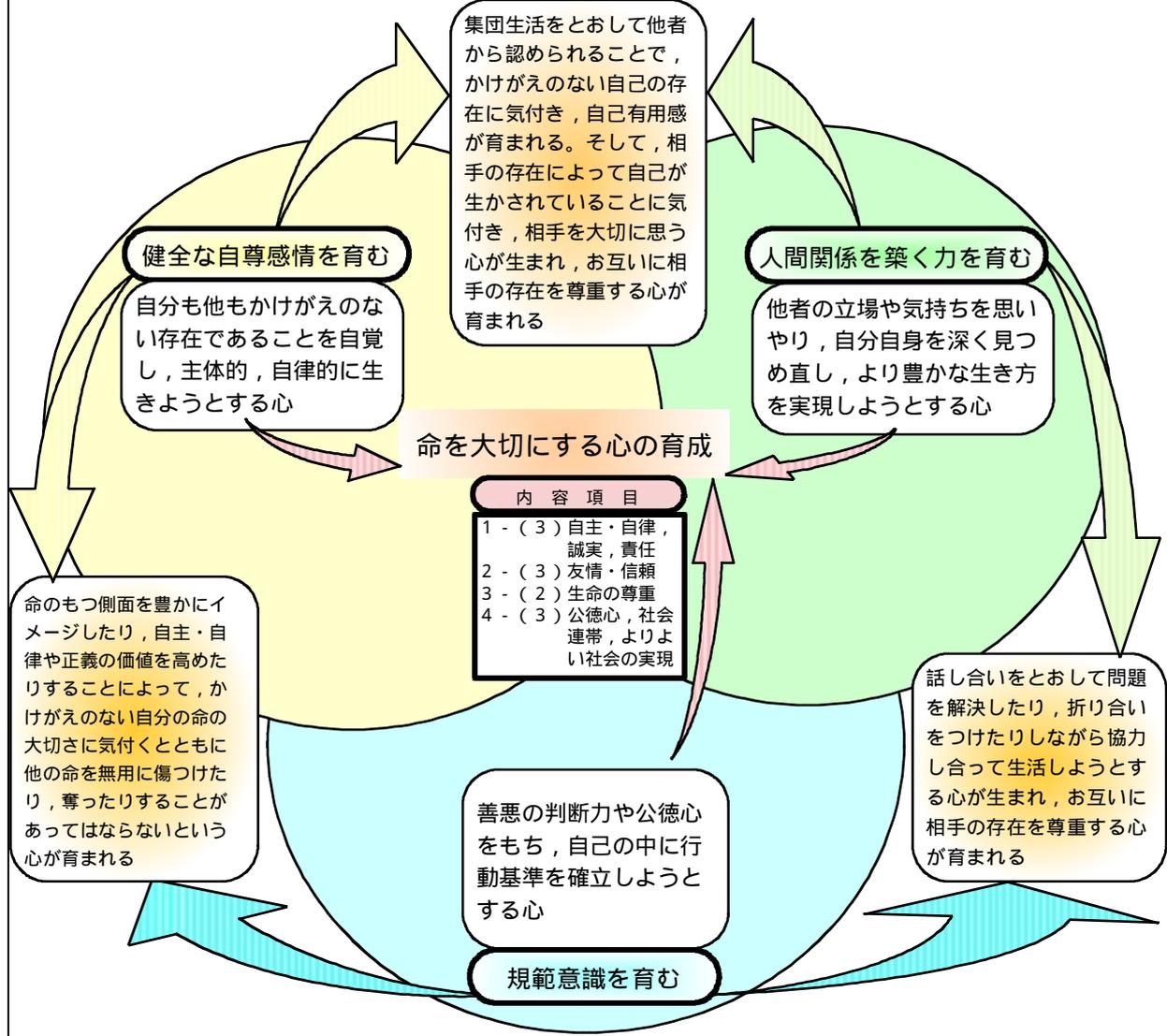
提言の内容から命を大切にする心を育むための三つの視点

健全な自尊感情を育む

規範意識を育む

人間関係を築く力を育む

命を大切にする心を育むための三つの視点と内在する道徳内容項目とのかかわり



【図 1】 命を大切にする心を育むための三つの視点と内在する道徳内容項目とのかかわり

(3) 命を大切にすることを育む道徳的実践プログラムを作成することの意義

道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて効果的に行うものである。しかし、2006年の中央教育審議会の「道徳教育の現状と課題」からは、「道徳の指導計画と道徳の時間の相互関係が不十分であること」や「道徳の時間の指導が形式化して実効が上がっていないこと」が課題として挙げられており、生徒の生命尊重の心が十分に育っていない現状の要因になっていることが報告されている。

これは、道徳教育全体計画はあるものの、全教育活動の中に道徳の内容価値をどのように位置付け、どのように育成していくのか具体的な計画が明確でないこと、道徳の時間と学校教育活動とを意図的に関連させて、見通しをもって効果的な指導がなされていない現状があることを意味している。

したがって、命を大切にすることを育むために、生徒の「健全な自尊感情」、「規範意識」、「人間関係力」の三つの視点全てにかかわる四つの内容項目の価値を高めていくことで命を大切にすることを育む中学校道徳教育が社会から求められており、学校に必要であると考えられる。

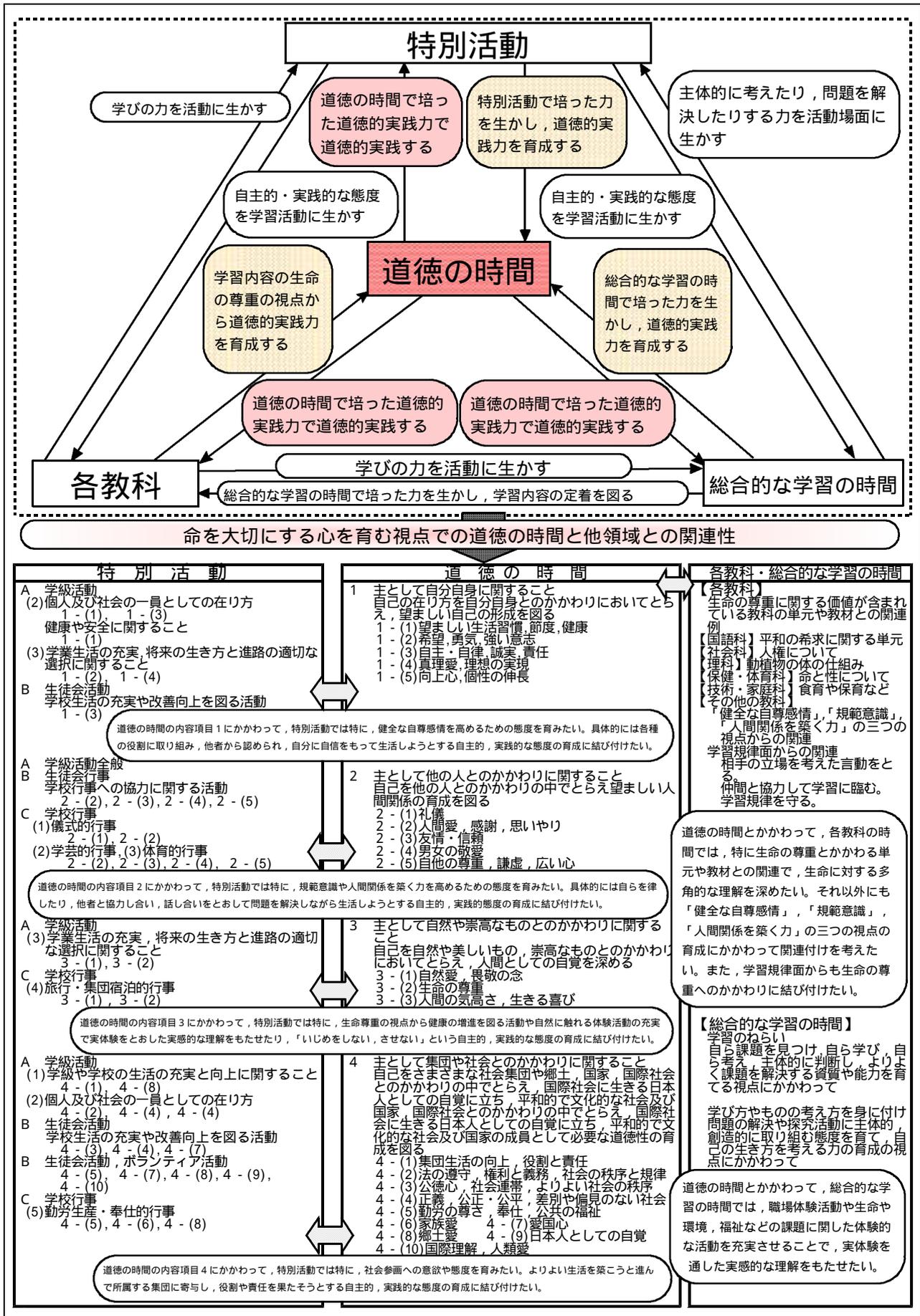
そこで、教科、特別活動、総合的な学習の時間など学校教育活動の全般に道徳的ねらいを明確に位置付け、道徳の時間と意図的に関連付けて道徳的実践活動を継続的に推進していくための指針となる道徳的実践プログラムを作成し、中学校道徳教育の効果的な推進を図ることとする。

以下、命を大切にすることを育む道徳的実践プログラムを次のように定義する。

道徳的実践プログラムとは、命を大切にすることを育むために道徳の時間と教科、特別活動、総合的な学習等を意図的に関連させ、道徳的実践活動を行うための指導の方法や手順を示したものである。

(4) 命を大切にすることを育むための道徳的実践プログラムにおける道徳の時間と他領域等との関連

道徳的実践活動を行う際には、各教科や特別活動、総合的な学習の時間のねらいを明確にふまえて、道徳的価値の自覚を深める視点での道徳的実践活動のねらいを立て、活動を推進することとする。道徳の時間と他領域等との関連を次頁【図2】のように考える。



【図2】道徳の時間と他領域等との関連図

(5) 命を大切にすることを育む道徳的実践プログラムにおける道徳的実践活動のねらいと活動場面

道徳教育において命を大切にすることを育むための三つの視点全てにかかわる四つの内容項目の価値を高めるためには、道徳的実践活動にどのようなねらいを位置付けて、具体的に学校教育活動のどの場面で道徳的実践活動を展開していくことが望ましいのか、以下のように考える。

ア 1 - (3) 「自主・自律，誠実，責任」について

道徳的実践活動のねらいは、「自主的に判断し，主体的に行動して，その結果について責任を果たそうとする心や態度を育てる」ことである。

三つの視点の中でも「健全な自尊感情」や「規範意識」を育む中で大切になってくる「自律」「責任」の価値があるととらえる。中学生は論理的な思考力が育つとともに，従うべき規範について他律から自律へと移行していく時期である。このような時期に，よりよく生きるために物事の善し悪しを判断し，行動していく時のよりどころをもたせることは大切なことである。

学校教育活動では，生徒が主体的に学校生活を見つめ直し，自分たちの生活規範となるよりどころを話し合い，決める場である生徒会活動などの集会活動の場面，日常の学級，学年，全校の委員会や係活動を行う場面などが道徳的実践活動の場にふさわしいと考える。

イ 2 - (3) 「友情・信頼」について

道徳的実践活動のねらいは、「友情の尊さを理解し，互いに相手の立場になって行動しようとする心や態度を育てる」ことである。

三つの視点の中でも特に，「人間関係を築く力」を育む中で大切になってくる価値であると考えられる。中学生の時期における友人の存在は自己の確立に大きな影響をもつ。友情で結ばれた生涯の友が出来るのも中学の時期が多い。仲間との間に信頼関係を築き，共に協力し合ってより良い学校生活を送ることは人生の大切な財産である。望ましい人間関係を築くためには，日常生活の中で集団を意識しながら，他者の立場を考えて接したり，協力し合うことの大切さを自覚できるように指導する必要がある。

学校教育活動の中では，仲間と協力し合って一つの大きな目標に向かって活動する特別活動の学校行事で取組の過程を振り返らせる場面，日常の学級・学年の活動，生徒会活動で集団の協力が求められる場面にふさわしいと考える。

ウ 3 - (2) 「生命の尊重」について

道徳的実践活動のねらいは，「命の大切さやありがたさを自覚し，現実に自他の生命の尊重に努めようとする心や態度を育てる」ことである。

研究のテーマそのものの内容項目である。特に，道徳の時間と各教科の生命尊重に関連する価値が含まれた単元内容にかかわって実践を図りたい。

エ 4 - (3) 「公德心，社会連帯，よりよい社会の実現」について

道徳的実践活動のねらいは，「公德心を大切にし，連帯感をもってよりよい社会の実現に努めようとする態度を育てる」ことである。

三つの視点の中でも「規範意識」に大きくかかわってくる内容項目であると考えられる。また，「健全な自尊感情」を育む中で大切になってくる「自己有用感」や「自己責任感」に大きくかかわってくる内容項目であると考えられる。生活体験に乏しい中学生が多い実態の中，学校を取り巻く社会に目を向けさせ，自分と社会とのかかわりや卒業後の将来の自分の生き方や勤労観，よりよい社会の在り方を考えさせることは大切なことである。

学校教育活動の中では，総合的な学習の時間の職場訪問活動や地域交流活動，生徒会活動の中

のボランティア活動など体験的な活動をとおして育みたい価値である。

(6) 命を大切に作る心を育む道徳的实践プログラムにおける道徳的实践活動の進め方

道徳的实践活動は、活動に対するねらいや目的意識を生徒が主体的にもつことで実践活動に向かう意欲が変わってくると考える。そのことによって、道徳的实践力の高まりも変わってくると考える。また、活動が終わった後の生徒自身の振り返りを充実させることで一人一人が道徳的な価値の自覚を主体的に図ることができると思う。活動の前後にしっかりと自分自身と向き合う時間を確保し、道徳的な視点で自分の気持ちや考えを書かせたり、自分の考えを他の人と交流させたりすることで、道徳の時間で学習した同じ内容価値を想起し、とらえなおすことに結び付き、道徳的实践力が高まるものと思う。

そこで、道徳的实践活動を、「生徒による個人目標の設定と意欲付け（第一段階）」、「活動や体験の実施（第二段階）」、「活動に対する生徒自身の振り返り（第三段階）」の三段階に設定する。

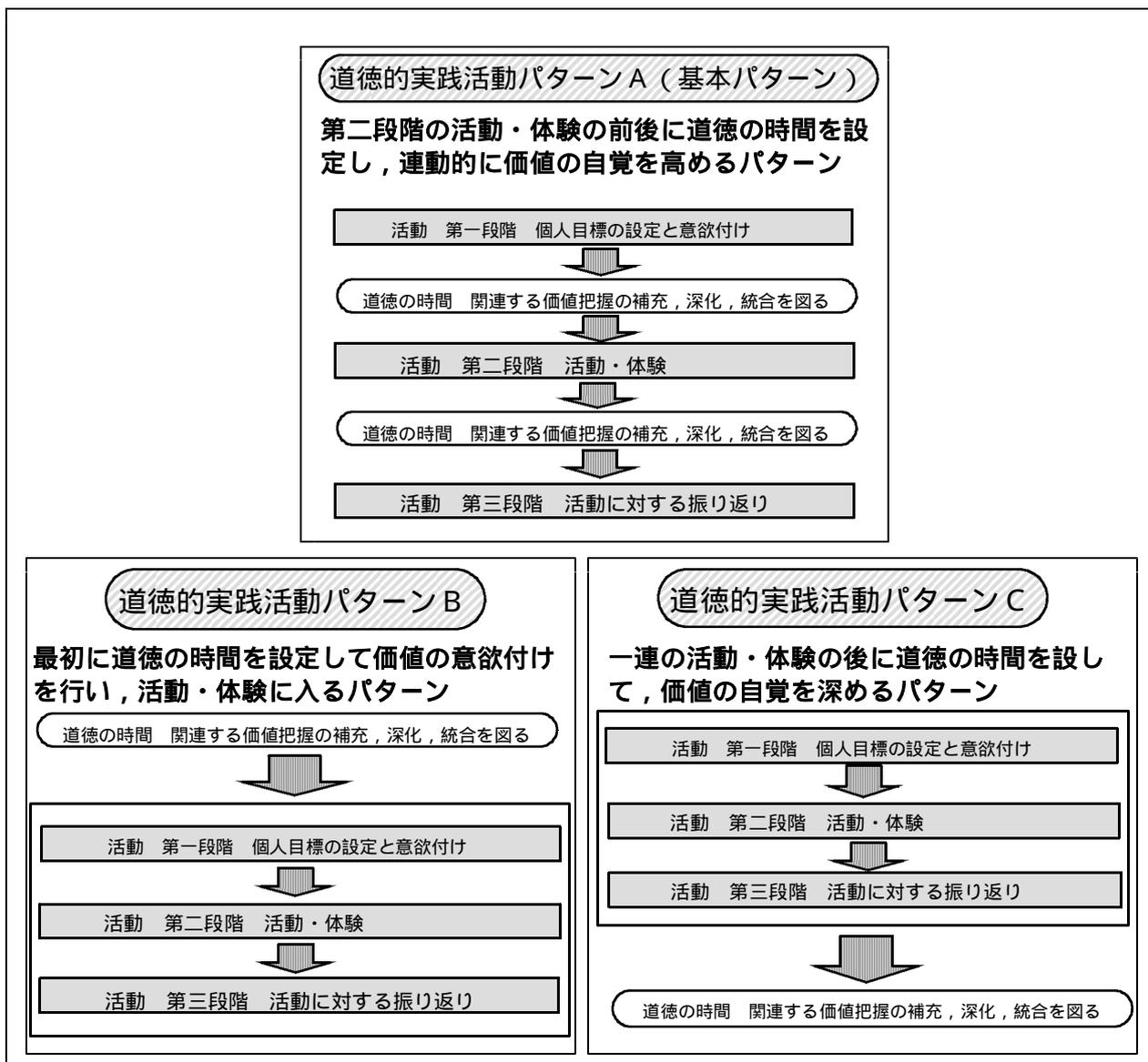
道徳の時間は一連の活動をとおして育成したい内容項目に関連させる形で、計画的に活動の前後に設定しながら道徳的価値把握のための補充、深化、統合を図るものとする。

これら三段階の活動と道徳の時間を併せた一連の展開を道徳的实践活動として位置付ける。

「生徒による個人目標の設定と意欲付け（第一段階）」では、活動・体験に入る前段階に、活動に対する目的意識や課題意識を持たせることによって、意欲付けを図るものとする。さらにその後道徳的实践活動の道徳的ねらいにあてはまる内容項目に関して道徳の時間の指導を行い、道徳的価値の自覚を高め、「活動・体験の実施（第二段階）」に入る。そして、道徳的ねらいと同じ内容項目の道徳の時間の指導を行い、価値の自覚を高める。その後、「活動に対する生徒自身の振り返り（第三段階）」において、活動・体験を振り返って道徳的ねらいに対する自分自身の行動を見つめ直させ、道徳的实践力の育成を図るものである。この一連の道徳的实践活動の展開を道徳的实践活動の基本的な活動パターンとする。

各教科と道徳の時間との連携については、「活動・体験の実施（第二段階）」を各教科の授業の時間としてとらえ、「生徒による個人目標の設定と意欲付け（第一段階）」と「活動に対する生徒自身の振り返り（第三段階）」を教科の授業時間以外の教育活動で行うものとする。

道徳的实践活動の推進については、学校の教育活動全体で進めていく視点から各学校の教育活動の特性や内容、及び生徒の実態に応じて弾力的に手だてを講じる必要がある。そこで、道徳的实践活動の基本活動パターンを中心に三つの活動パターンを考えた。それら道徳的实践活動の三つの活動パターンを示したものが次頁【図3】である。



【図3】命を大切にする心を育む道徳的実践活動の三つのパターン

(7) 命を大切にする心を育む道徳的実践プログラムにおける道徳の時間の指導構想

命を大切にする心を育む道徳的実践プログラムにおける道徳の時間は、命を大切にする心を育むための「健全な自尊感情」、「規範意識」、「人間関係を築く力」の三つの視点全てにかかわるととらえた四つの道徳の内容項目 1 - (3)「自主・自律、誠実、責任」、2 - (3)「友情・信頼」、3 - (2)「生命尊重」、4 - (3)「公德心、社会連帯、よりよい社会の実現」を中心に生徒の心に響く道徳の時間の指導に心がけていきたい。

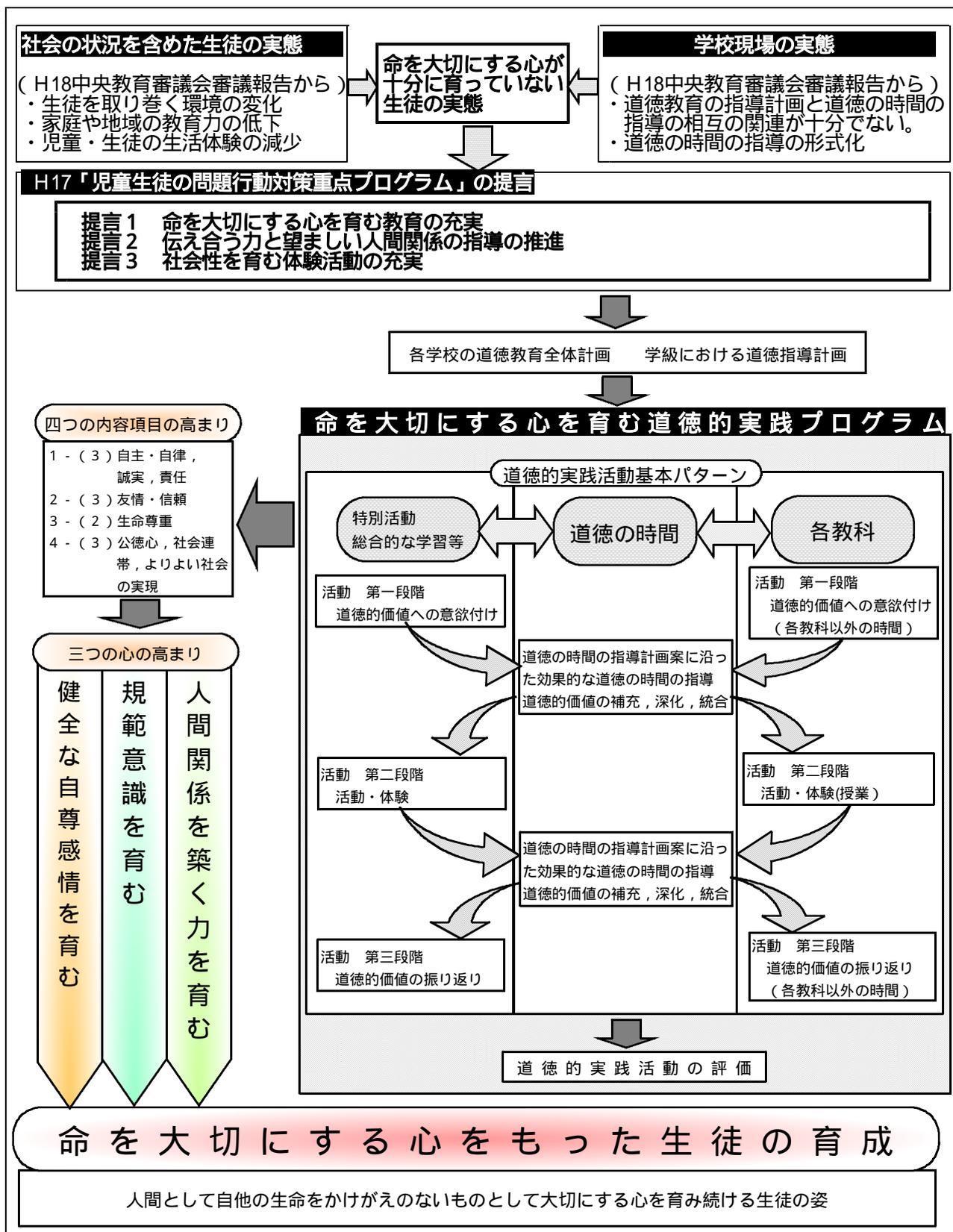
そのために、効果的な道徳の時間の指導の在り方を示した指導計画案を作成することとする。具体的には、命を大切にする心を育成するための内容項目に関する授業展開の工夫、心のノートやゲストティーチャーの効果的な活用の仕方、開発資料による授業の工夫など、生徒が主体的に価値の自覚を図るためのさまざまな道徳の時間の指導方法の工夫や効果的な教材・資料の選定が一時間の道徳の授業単位で示されたものである。この指導計画案を活用して、生徒の実態に応じて弾力的に道徳の時間の指導を行うことで生徒の道徳的実践力の育成を図りたい。以下、道徳の時間の指導構想を次頁【表2】に示す。

【表2】命を大切にすることを育む道徳の時間の指導構想

項 目	大 切 に し た い 視 点
授業のねらい	<p>道徳の授業構想はすべてこのねらいとする道徳的価値に生徒たちをどのように迫らせるかということが中心となるので、道徳的価値のとらえを指導者が明確にもつことが最も大切であると考え。</p>
道徳的実践活動における位置付け	<p>道徳の時間が道徳的実践活動の一連の流れの中のどこに位置付けられているのかを示す。同時に、その道徳の時間のねらいが前後の道徳的実践活動にどのように関連付き、最終的に道徳的実践活動のねらいに結び付いていくのかを明確にする。</p>
資料について	<p>道徳の時間に取り扱う資料の特質や意義を示す。特に、命を大切にすることを育むためにどのような価値が資料の内容に含まれているのかを明確にする。</p> <p>また、開発資料も含めて、生徒の心に響く効果的な教材・資料選定に心がける。</p>
指導方法の工夫	<p>資料の特質をふまえて、生徒たちの道徳的価値の自覚を深めるためにどのような指導方法の工夫を図るのかを具体的に示す。</p> <p>指導方法の工夫として、次に挙げる視点から授業構想を考えていきたい。</p> <p>多様な指導過程の工夫</p> <p>資料を活用した展開の方法は、資料の特質によって、多様な指導過程の工夫を図る。</p> <p>ゲストティーチャーの効果的な活用</p> <p>特に、生命の尊重の視点から、保護者や地域の方の授業参加を考えたい。</p> <p>心のノートの効果的な活用</p> <p>道徳の時間の各段階で必要に応じて活用したり、ノートに書いたことを交流し合ったり、保護者の協力の手だてにしたりと多様な活用を心がけたい。</p> <p>その他</p> <p>社会とのかかわりをふまえ、人間としての生き方を見つめさせる話し合いを中心とした指導についても構想する。</p>

(8) 命を大切にすることを育む中学校道徳教育に関する基本構想図

これまで述べてきたことから、命を大切にすることを育む中学校道徳教育に関する基本構想図を【図4】のように作成した。



【図4】命を大切にすることを育む中学校道徳教育に関する基本構想図

2 命を大切にすることを育む道徳的実践プログラムの構想について

命を大切にすることを育む中学校道徳教育の基本構想を踏まえ、道徳的実践プログラムの構想を次のように考える。

(1) 命を大切にすることを育む道徳的実践プログラムの概要

道徳的実践プログラムは、学校教育活動の中に命を大切にすることを育むための道徳的ねらいを位置付けた道徳的実践プログラムの全体基本構想図と道徳的実践活動の基本的な三つの活動パターン、活動パターンごとの指導手順表、及び道徳的実践活動構想図の例、道徳的実践活動ごとの指導計画案例、道徳の時間の指導計画案例を示す。

ア 道徳的実践プログラム全体基本構想図

年間をとらして学校教育活動全体で取り組む道徳的実践活動の位置付けや道徳的実践プログラムの概要を示した基本構想図である。(全体基本構想図を【補充資料1】に示す。)

イ 道徳的実践活動の三つの活動パターン

道徳的実践活動の一連の展開を示したものである。(本資料P11【図3】参照)

ウ 道徳的実践活動の指導手順表

道徳的実践活動の三つの活動パターンごとの具体的な指導の手順を示したものである。(指導手順表の例を【補充資料2】に示す。)

エ 道徳的実践活動構想図(例)

道徳的実践プログラム全体基本構想図に沿って作成した道徳的実践活動の構想図の例であり各学校で作成する道徳的実践活動構想図の見本となるものである。(道徳的実践活動構想図の例を【補充資料3】に示す。)

オ 道徳的実践活動ごとの指導計画案(例)

命を大切にすることを育むために重要な四つの内容項目の一つ一つを高めるためのそれぞれの道徳的実践活動の具体的な指導の手順を示した指導計画案(例)である。(道徳的実践活動の指導計画案(例)を【補充資料4】に示す。)

カ 道徳の時間の指導計画案(例)

命を大切にすることを育むために重要な四つの内容項目を高めるための効果的な道徳の時間の指導の在り方の例を具体的に示したものである。(道徳の時間の指導計画案(例)を【補充資料5】に示す。)

キ 命を大切にすることを育む道徳的実践活動の評価

命を大切にすることを育むために重視する四つの内容項目のそれぞれ「健全な自尊感情」、「規範意識」、「人間関係力」の三つの視点の道徳的ねらい(本資料P5【表1】参照)にかかわる生徒の自己評価を四つの道徳的実践活動年間プログラムの最初と最後、それぞれの道徳的実践活動の第一段階と第三段階の時点で行い、生徒の変容を評価する。また、教職員や保護者を対象にした「道徳教育に関するアンケート調査」からも生徒の変容を評価する。

(2) 命を大切にすることを育む道徳的実践プログラムの各学校における作成手順

命を大切にすることを育む道徳的実践プログラムを活用して、各学校ごとの命を大切にすることを育むための道徳的実践活動プログラムの作成手順を以下に示す。

ア 道徳的実践活動の活動場面の設定

各学校の道徳教育全体計画や道徳的実践プログラムの全体基本構想図【補充資料1】に基づいて、四つの内容項目の道徳的実践活動のねらいに迫るために道徳的実践活動の活動場면을学

校教育活動に具体的に位置付ける。

イ 道徳的実践活動の活動パターンの選択

道徳的実践プログラムの全体基本構想図や道徳的実践活動の活動パターン（本資料P11【図3】参照）を参考にして、各学校の実態に応じてそれぞれの道徳的実践活動における活動パターンを選択・決定する。

上記のア、イをもとにして、以下、ウ～オを各学校で作成する。

ウ 各学校ごとの命を大切にすることを育む道徳的実践活動構想図の作成

道徳的実践プログラムの全体基本構想図や道徳的実践活動構想図（例）【補充資料3】を参考にして、各学校ごとに命を大切にすることを育む道徳的実践活動構想図を作成する。

エ 命を大切にすることを育む道徳の時間の年間指導計画の作成

道徳的実践活動場面が学校教育活動の中に位置付けられたことを受けて、学校の全教育活動における道徳教育を「補充・深化・統合」する役割を果たす年間35時間の各学年の道徳の時間の年間指導計画を作成する。

オ 命を大切にすることを育む道徳的実践活動や道徳の時間の具体的な指導計画の作成

作成した道徳的実践活動構想図や道徳の時間の年間指導計画に沿って、道徳的実践活動ごとの指導計画案（例）【補充資料4】、道徳の時間の指導計画案（例）【補充資料5】を参考にして、各学校ごとに道徳的実践活動や道徳の時間の具体的な指導計画を立てる。

上記ウ～オにおいて作成したものを各学校の命を大切にすることを育む道徳的実践プログラムとする。

キ 道徳的実践活動の推進手順表【補充資料2】を参考にして、道徳的実践活動を推進する。

研究のまとめ

1 研究の成果

この研究は、命を大切にすることを育む中学校道徳教育の在り方を明らかにするために道徳的実践プログラムを作成し、その実践を通して、中学校道徳教育の推進に資するものである。本年度の研究の目標は、命を大切にすることを育む中学校道徳教育についての基本的な考え方を検討するとともに、基本構想を立案し、道徳的実践プログラムの概要を示すことであった。その結果、次のような成果を得ることができた。

(1) 命を大切にすることを育む中学校道徳教育についての基本構想の立案について

主題にかかわる先行研究や文献に当たることにより、命を大切にすることを育むための中学校道徳教育において求められていることや育てる視点を、「健全な自尊感情」、「規範意識」、「人間関係を築く力」の三点であるにとらえた。このことにより、これら三つの視点全てがかかわる道徳内容項目を1 - (3)、2 - (3)、3 - (2)、4 - (3)にとらえ、これら四つの内容項目を高めるために命を大切にすることを育む道徳的実践プログラムを作成する必要性を確認し、命を大切にすることを育む中学校道徳教育に関する基本構想を検討し、立案することができた。

(2) 命を大切にすることを育む中学校道徳教育における道徳的実践プログラムの概要の提示

基本構想で述べた視点を基に、命を大切にすることを育む道徳的実践プログラムを四つの道徳内容項目を高めるための道徳的実践活動の活動場面や活動パターンを位置付けた道徳的実践プログラムの全体基本構想図を示すなど道徳的実践プログラムの概要や作成手順を提示することができた。

2 今後の課題

第2年次は、本年度の研究を踏まえながら、命を大切にする心を育むための道徳的実践プログラムを完成させ、研究協力校において効果的に推進していくことが今後の課題である。なお、推進に当たっては、研究協力校における教育活動の中に道徳的実践プログラムの道徳的実践活動をどのように位置付けていくことで、より効果的な実践が図ることができるのかを検討し、研究を推進していくことで命を大切にする心を育む中学校道徳教育の在り方を明らかにしていきたい。

[おわりに]

この研究を進めるに当たり、ご協力いただきました研究協力校の先生方に感謝申し上げます。

【引用文献】

学習研究社(2007),『かけがえのない きみだから 中学生の道徳1,2,3年』(道徳 副読本), 裏表紙

近藤 卓(2007),『いのちの教育の理論と実践』,金子書房, pp.8~13

永田繁雄(2007),『学習指導要領改訂への動きとこれからの道徳教育』(講話用資料)

文部科学省(1999),『中学校学習指導要領』

文部科学省(2000),『中学校学習指導要領 解説 - 道徳編 - 』

【引用Webページ】

文部科学省(2004),『児童生徒の問題行動対策重点プログラム(最終まとめ)』

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/16/10/04100501/001.htm

文部科学省(2006),『中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 豊かな心をはぐくむ教育の在り方に関する専門部会(第7回)議事録』

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/gijiroku/019/06080911/001.htm

文部科学省(2007),『中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 第3期教育課程部会の審議の状況について』

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/001/07022020/001.htm

【参考文献】

押谷由夫(1995),『総合単元的道徳学習論の提唱 構想と展開』,文溪堂

梶田叡一(1989),『自己意識の発達心理学』,金子書房

楠 茂宣(2005),『道徳と特別活動』1月号,文溪堂

七條正典,五條しおり(1999),『「心の教育」実践大系3 中学生の心の教育』,日本図書センター

杉田 洋(2007),『指導と評価07』7月号,日本図書文化協会

永田繁雄(2006),『「じぶん」「いのち」「なかま」を見つめる道徳授業』,教育出版

永田繁雄(2007),『道徳と特別活動』6月号,文溪堂

岩手県立総合教育センター(2005),『教科との関連を図る小・中学校総合的な学習の時間の改善に関する研究』

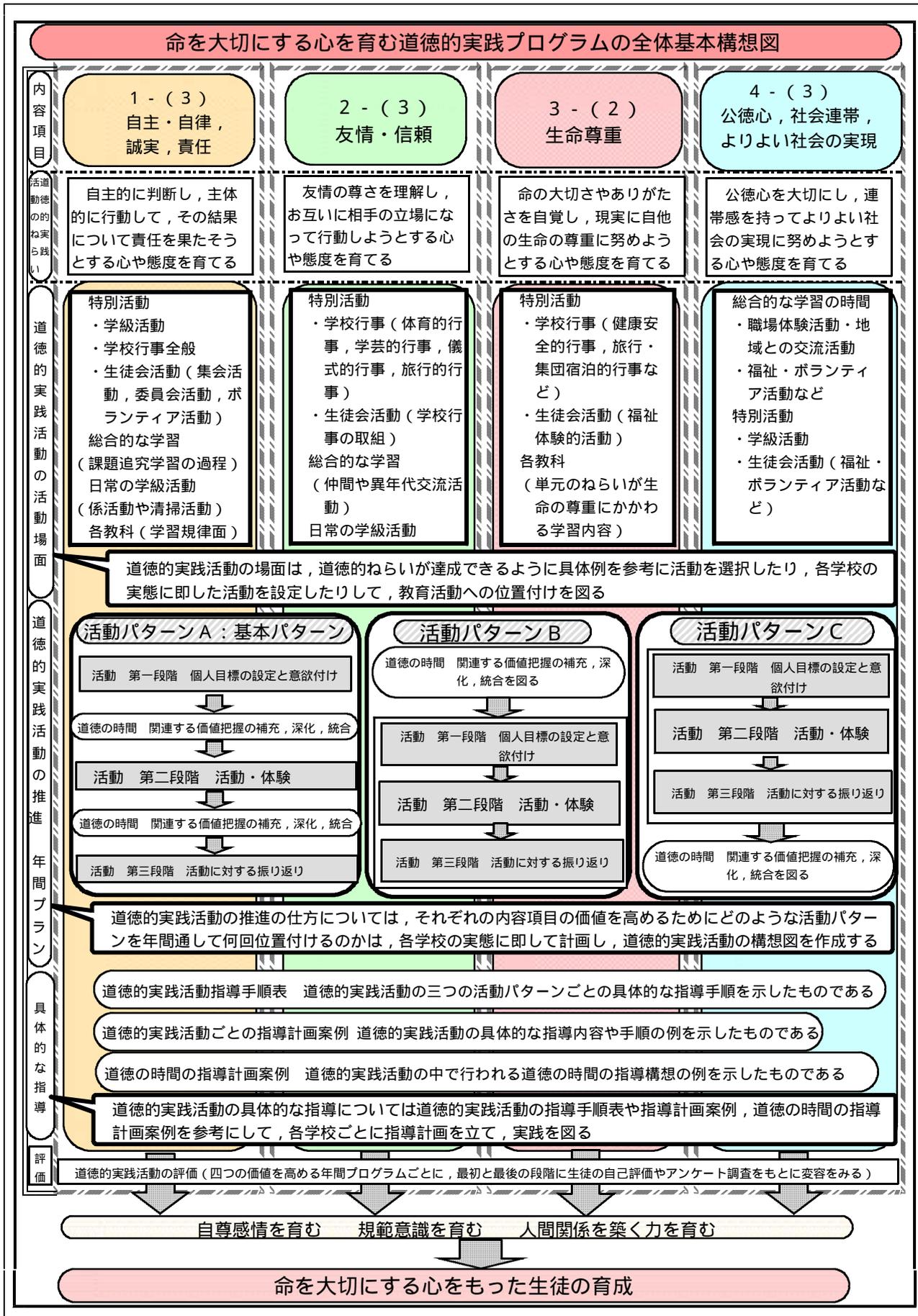
岩手県立総合教育センター(2006),『命を大切にする心を育む小学校道徳教育に関する研究』

岩手県立総合教育センター(2007),『中学校の道徳教育 理論と実際 』

補 充 資 料（道徳的実践プログラムの概要）

- 【補充資料 1】命を大切にすることを育むための道徳的実践プログラムの全体基本構想図 ----- 資 1
- 【補充資料 2】命を大切にすることを育むための道徳的実践活動の指導手順表（例） ----- 資 2
- 【補充資料 3】命を大切にすることを育むための道徳的実践活動構想図（例） ----- 資 3
- 【補充資料 4】4つの内容項目を高めるための道徳的実践活動の指導計画案(例) ----- 資 4
・ 4 - (3) 公德心 , 社会連帯 , よりよい社会の実現編
- 【補充資料 5】4つの内容項目を高めるための道徳の時間の指導計画案（例） ----- 資 6
・ 2 - (3) 友情・信頼編

【補充資料1】命を大切にする心を育む道徳的実践プログラムの全体基本構想図



【補充資料2】道徳的実践活動の指導手順表（活動パターンA：基本パターンの例）

道徳的実践活動の活動パターンA（基本パターン）の指導手順表

活動 第一段階 生徒による個人のめあての設定と意欲付け 設定時間（特別活動（学級の時間及び学年集会），総合的な学習の時間 など）	
指導過程	具体的な指導内容
1 オリエンテーション	・道徳的実践活動の概要を把握させることで生徒たちに活動の見通しをもたせる。活動のねらいにはあえてふれない。
2 課題意識づくり	・なぜこの活動をするのかを生徒たち自身の考えを交流させることで，活動に対する意識付けを図る。
3 ねらいの確認	・生徒たちが活動のねらいを概ね把握できたところで，教師が活動をとおして育みたい内容価値に関する説話をする。
4 活動に対する個人目標の設定	・全体のねらいを確認した上で，各自の活動に対する個人目標（道徳的な視点を含む）を設定させ，「見つめるシート」に記入させる。
5 個人目標の交流	・個人目標をお互いに交流させることで活動に対する意欲を高める。



道徳の時間の指導 道徳的実践活動で高めたい価値にかかわる内容項目について，道徳の時間の指導計画例を活用して，補充，深化，統合し，主体的な価値の自覚を図り，第二段階の活動・体験への意欲付けに結び付ける。



活動 第二段階 活動・体験 設定時間（特別活動，総合的な学習の時間など）	
指導過程	具体的な指導内容
1 前時のオリエンテーションの想起（個人のねらいの再確認）	・第一段階のオリエンテーションで行った活動のねらいを想起させ，個人のねらいを再確認させる。
2 課題追求	・個人のめあての達成に向けて，活動に取り組む。

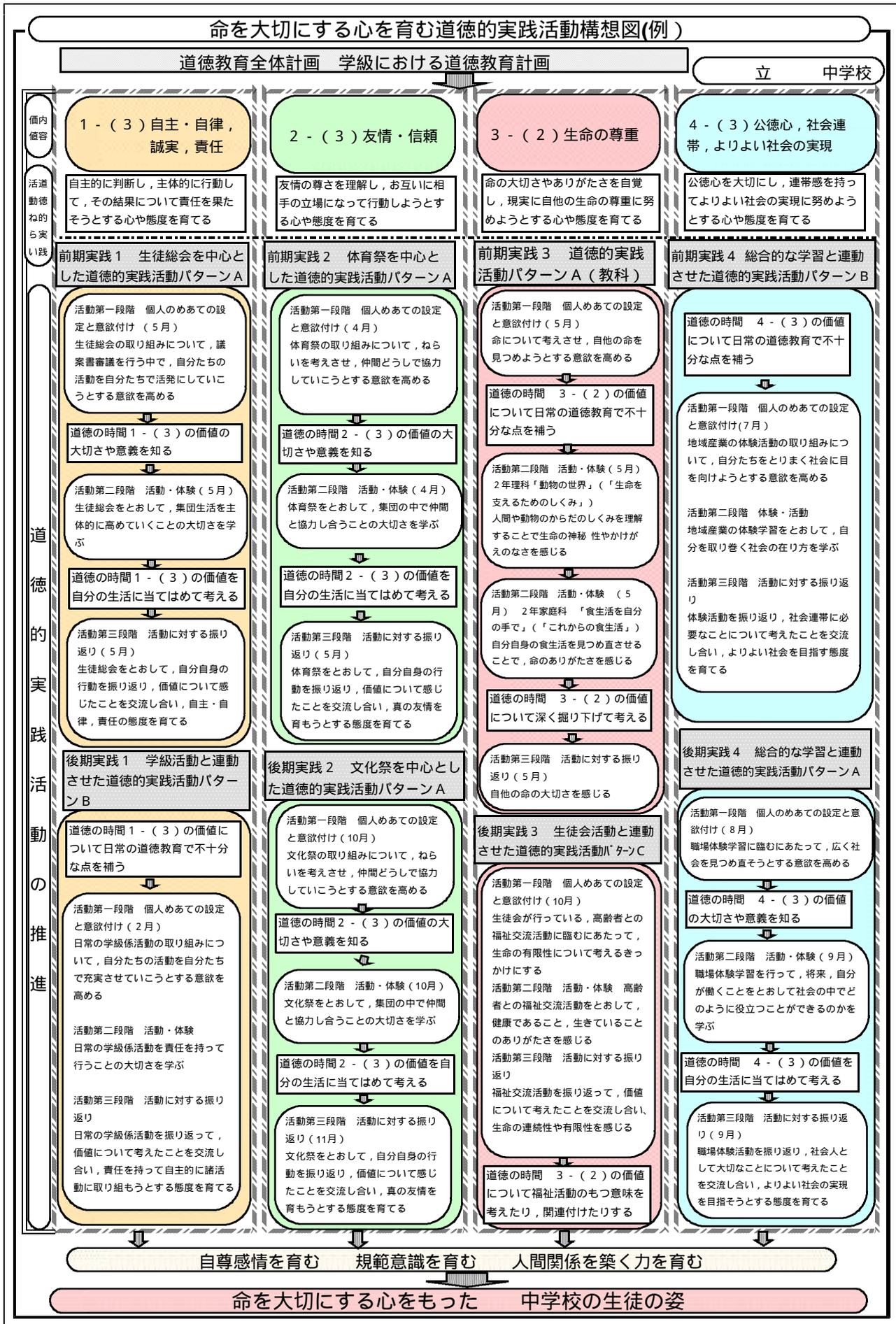


道徳の時間の指導 道徳的実践活動で高めたい価値にかかわる内容項目について，道徳の時間の指導計画例を活用して，補充，深化，統合し，主体的な価値の自覚を図り，第三段階の活動に対する振り返りに結び付ける。



活動 第三段階 活動に対する生徒自身の振り返り 設定時間（特別活動（学級の時間および学年集会），総合的な学習の時間など）	
指導過程	具体的な活動内容
1 第二段階の活動・体験の想起	・第二段階で行った活動を想起させ，個人のねらいに対して自分自身の行動はどうだったのかを考えさせる。
2 「見つめるシート」への記入	・自分自身の行動や心情を振り返らせ，「見つめるシート」に記入させる。
3 「見つめるシート」の交流と教師の評価	・「見つめるシート」に記入した内容をお互いに交流させ，教師が評価することによって活動の成果を確認し合う。

【補充資料3】命を大切にする心を育む道徳的実践活動構想図(例)



【補充資料4】4つの内容項目を高めるための道徳的実践活動の指導計画案（例）

4 - (3) 公德心, 社会連帯, よりよい社会の実現編 (総合的体験的活動を中心に)

特に高めたい内容項目 4 - (3) 公德心, 社会連帯, よりよい社会の実現

道徳的実践活動のねらい 公德心を大切に, 連帯感を持ってよりよい社会の実現に努めようとする態度を育てる。

道徳的実践活動 (活動パターンA: 基本パターン)

1 道徳的実践活動の大まかな流れ

総合的な学習の時間のねらいである探究活動に主体的, 創造的に取り組む態度を育て自己の生き方を考えるために学年ごとに「生き方を学ぶ学習」を行っている。

今回は2学年の「職場体験活動」を中心に道徳的実践活動のねらいの視点から道徳の時間の内容項目4 - (3)の指導と結び付けて活動計画を立てるものとする。活動のパターンはパターンA (基本パターン)である。

2 道徳的実践活動

活動	第一段階	生徒による個人目標の設定と意欲付け	設定時間 (総合的な学習の時間「生き方を学ぶ学習」2年「職場体験活動」20時間扱い1時間目)	月	日
指導過程		具体的な指導内容			
1	オリエンテーション	・学級で, 「生き方を学ぶ学習」の概要を教師の説明によって把握させ, 生徒たちに活動の見通しをもたせる。活動のねらいについてはここではあえて示さない。			
2	課題意識づくり	・なぜこの活動をするのかを生徒たち自身に考えさせ, 生徒たちの言葉で考えを発表交流させる。活動のねらいについては, 総合的な学習の時間のねらい, 道徳的実践活動のねらいどちらでも生徒が気付けばよいこととする。			
3	ねらいの確認	・生徒たちが活動のねらいを概ね把握できたところで, 教師が活動を通して育みたい内容項目に関する説話をする。			
4	活動に対する個人目標の設定	・全体のねらいを確認した上で, 道徳的なねらいの視点に関して各自の職場体験活動に対する個人目標を設定させ, 「見つめるシート」に記入させる。			
5	個人目標の発表交流	・職場体験活動に対する個人目標を互いに交流し合って, 活動に対する意欲を高める。教師の評価が入ってもよい。			



道徳の時間の指導 (月 日)	「坂道」	4 - (3) よりよい社会の実現	・「坂道」の資料を活用して, 4 - (3) よりよい社会の実現をねらいとした指導を行う。具体的な指導については, 道徳の指導計画案のP を参照のこと
----------------	------	-------------------	---



活動	第二段階	活動・体験	設定時間 (総合的な学習の時間「生き方を学ぶ学習」2年「職業体験活動」20時間扱い9~20時間目)	月	日
1	前時のオリエンテーションの想起 (個人目標の再確認)	・第一段階のオリエンテーションで行った職場体験活動のねらいを想起させ, 個人目標を再確認させる。活動日当日に時間が取れない場合は, 活動の前時の総合の時間の段階でもよい。			
2	課題追求	・個人目標の達成に向けて, 仲間とともに職場体験活動に取り組む。			





道徳の時間の指導 (月 日) 「住みよい社会」 4 - (3) よりよい社会 の実現	・「住みよい社会に」の資料を活用して、4 - (3) よりよい社会の実現をねらいとした指導を行う。 具体的な指導については、道徳の指導計画案のP を参照のこと
--	--



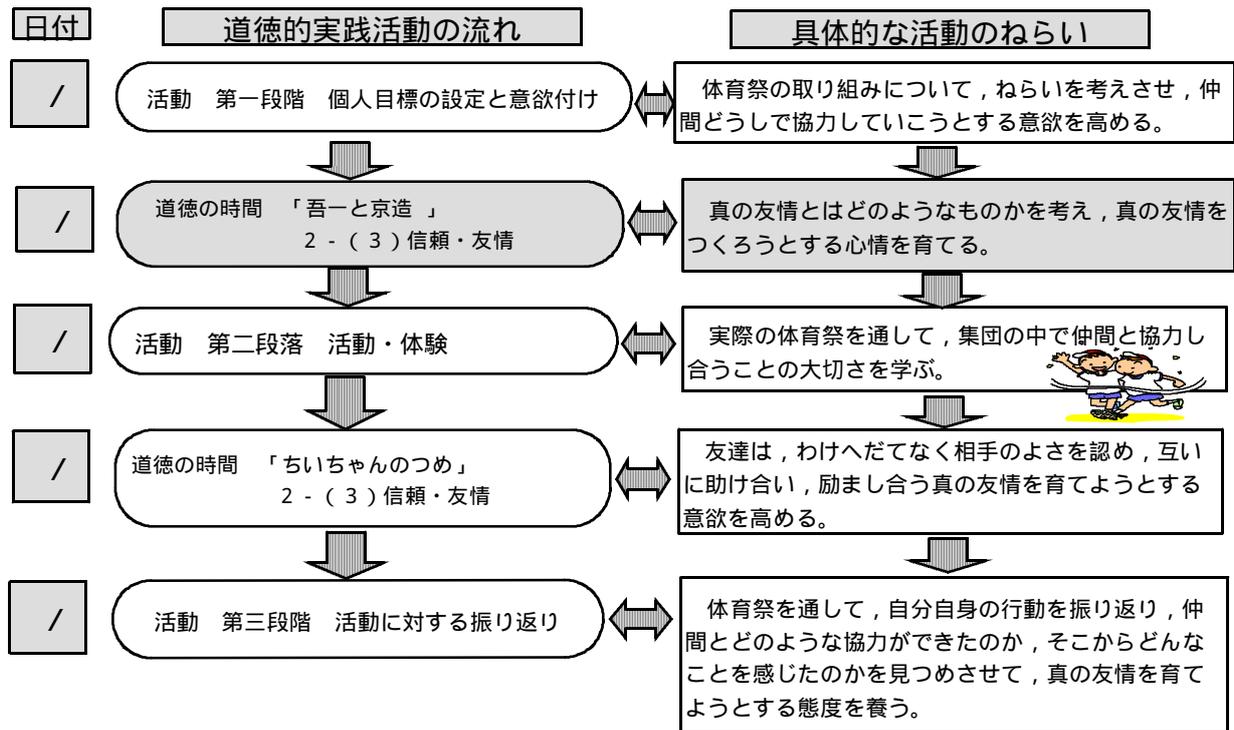
活動 第三段階	活動に対する生徒自身の振り返り 設定時間 (総合的な学習の時間「自己表現の学習」2年「職場体験活動」 34時間扱い22～28時間目 月 日)
1 第二段階の道徳的実践 活動の想起	・第二段階で行った職場体験活動を想起させ、個人目標に対して自分自身の行動はどうだったのか道徳的なねらいの視点で考えさせる。
2 「見つめるシート」への 記入	・道徳的なねらいの視点で自分自身の行動や心情を振り返らせ、「見つめるシート」に記入させる。
3 「見つめるシート」の 交流と教師の評価	・「見つめるシート」に記入した内容をお互いに交流させ、教師が評価しながら活動の成果を確認し合う。

主題名 真の友情	内容項目 2-(3)信頼・友情
資料名 吾一と京造(山本有三『路傍の石』より)	出典

授業のねらい 真の友情について考え、真の友情をつくらうとする心情を育てる。

道徳的実践活動における位置付け

本時間は、一連の道徳的実践活動の中で、体育祭に向けて仲間どうして協力していこうと意欲付けを図った活動の第一段階を受けている。望ましい人間関係を築くための大切な要素となる真の友情の在り方について価値の意義や大切さを知る時間として位置付け、その後の体育祭に、仲間の立場を考えながらよりよいかかわり合いをしようとする心情や態度で臨ませたい。



資料について

本資料「吾一と京造」は、山本有三の『路傍の石』の出だしの一部分で葛藤資料である。このような友人関係についての葛藤は日常よくあることだが、正しいことを友人に忠告したり、建設的な考えを出し、互いを高め合うという行動をとることは少ないと思われる。この資料をとおして真の友情の在り方について考えさせることにより、ねらいに迫りたい。

指導方法の工夫

資料の中に入るというより、資料と向かい合うようななかかわりの視点で指導していきたい。特に一人だけで学校に向かった吾一の行動に注目させ、その行動についてどのように考えるか個人の考えを書かせ、考えを発表させたい。その上で、葛藤場面における判断の根拠を問う話し合いを中心に展開していく。そして、それぞれの立場の考えの根拠を明確にしておくことで、より高い価値に気付かせていきたい。